

# 平成 27 年度 学校（幼稚園） 自己評価結果

関西女子短期大学附属幼稚園  
園長 岡本京子

## 1 本園の教育目標

<p>○建学の精神「感恩」</p> <p>人はみな、様々な恩恵を享受し、生かされている。この真理に目覚め、感動と感謝から発する、豊かな心と情熱をもって、人の幸せを願い行動するとき、私たちは社会に貢献できる。</p> <p>「ありがとう」の出会いに気づき、感動と感謝の行動から、新しい「ありがとう」が生み出されていく。この建学の精神を体し、その具現化に努める。</p> <p>○教育目標「ひろい心 すこやかな身体 豊かな創造性」</p> <p>①「ありがとう」の感謝の心、「いいよ」と言える寛大な心、「ごめんなさい」と言える素直な心を育成する。</p> <p>②「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」など、しっかり挨拶ができる。</p> <p>③絵画製作や音楽リズムを通して、豊かな感性と創造性を育成する。</p> <p>④自然の中で身体を使い、五感をつかって遊ばせる活動を展開する。</p> <p>⑤正課の体育や剣道を通じて、心身ともにバランスのとれた体づくりを実践する。</p>
--

## 2 本年度、重点的に取り組む目標、計画

<p>学園の教育理念と経営方針、本園の教育目標に基づいて、教職員間の共通理解を図り、自身の保育を見つめ直し、教育の質の向上に努め、教育内容の改善に主体的に取り組み、本園が担う幼児教育の役割について考えることを重点目標とする。</p>
--

## 3 評価項目(事業計画)の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
(1) 本園の保育目標に従い、園児の実態をもとに、教育課程を作成・実践する。	<p>○運動会、作品展、生活発表会などの各行事は独立してあるのではなく、1学期からの子どもたちの様子や発達段階をしっかりと把握し、それに応じた個々の園児への対応、それぞれのクラスや学年の持ち味や特徴をとらえた行事の展開を目指し、計画を立てていくことに取り組んだ。</p> <p>○毎週学年会を実施して、具体的な活動方法について話し合い、学年ごとに特色のある教育活動に取り組んだ。</p>
(2) 幼稚園の状況をふまえて、中・長期的な計画を策定する。	<p>○幼児期の育ちを、小学校以降への学びへとつなげていくために、小学校やその他の校種との連携を積極的に展開した。</p> <p>○子どもたちの育ちの変化や社会の変化に対応し、発達や学びの連続性を確保し、計画的に環境を構成することを心がけた。</p>
(3) 教育力の向上のため、研修の充実を図る。	<p>○研修の機会を確保した上で、大学等を含めた関係機関と有機的連携を図りながら、教員のキャリアステージに応じて、教員のニーズも踏まえた研修を効果的・効率的に行った。</p> <p>○教員が学び続けるモチベーションを維持するため、教員の主体的な学びが適正に評価され、学びによって得られた能力や専門性の成果が見える形で実感できるように配慮した。</p>
(4) 園内の施設・設備、安全管理の充実を図る。	<p>○園内の環境及び安全面について、毎日1回の安全点検などを行い、危険防止、環境改善に努めた。</p> <p>○子どもたちは成長するにつれて、慣れから不注意や冒険心を刺激するような態度・行動になるので、教職員が相互に注意し合うように心がけた。</p>

(5) 保護者の要望や意見に適切に対応して、満足度のさらなる向上に努める。	<p>○カリキュラムについて、より具体的な取り組み内容を「学年だより」などに掲載して、少しでもその内容が分かるような工夫を試みた。</p> <p>○園運営や行事などについて、保護者対象のアンケート調査を実施し、意見や要望に対して積極的に対応して、改善できるよう努力した。</p>
---------------------------------------	---

#### 4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>教職員全員が学校評価（自己評価）の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。今後も、客観的な目で自らの教育を振り返り、さらに充実した教育実践ができるように努力を積み重ねていきたい。また、教職員間でのコミュニケーション能力が向上し、意思伝達がスムーズにできるようになってきている。</p> <p>施設・設備面では環境整備に力を入れており、教育サービスにおいても安心、安全に教育を展開できる環境になるよう努力しており、概ね目標を達成できた。</p>
---

#### 5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
(1) 保育と環境、施設・設備の見直しと改善	<p>○園児にとって楽しく、過ごしやすい環境に改善していきたいという思いで、大型遊具の点検整備は着実に推進してきた。今後は、クラスの保育室においても、さらに遊具などの充実を図り、遊びコーナーを工夫し、子どもたちが興味や関心をもって関わり、考えたり、試したりできる環境を創造していきたい。</p>
(2) 研究と実践について	<p>○新たな知識や技術の活用により社会の進歩や変化のスピードが速まる中、教員の資質能力向上は最重要課題である。一方、教員の経験年数の均衡が顕著に崩れ始めて、かつてのように先輩教員から若手教員への知識・技能の伝承をうまく図ることのできない状況があり、継続的な研修を充実させていくための環境整備を図るなど、早急な対策が必要である。</p>
(3) 園に対する保護者の満足度の把握	<p>○保護者、未就園児に興味や関心をもってもらえるような園庭開放のあり方、教育相談の充実を図っていきたい。そのためにも、分かりやすい説明会、園だより、ホームページの充実を目指したい。また、教育環境面の整備や教員の資質能力向上などについても、現状に満足することなく、さらに改善充実を図り向上に努めたい。</p>

#### 6 学校関係者評価

<p>○日常における安全・衛生管理には特段の注意がはらわれている。今後とも、日々意識がマンネリ化しないよう、大きな怪我が無いよう努力してほしい。</p> <p>○地域とのつながりや未就園児への支援等、在園児以外への子育て支援は十分とはいえず、引き続き子育て新支援制度への対応と併せて改善が必要と思われる。</p> <p>○発達障がい児指導に配慮して、共に育つ保育が展開されており、その効果は大きなものがあると思われる。</p> <p>○保育計画が前年度を踏襲するマンネリに陥ってないか精査する必要がある。</p> <p>○家庭との連携を図るため情報の提供をより密にし、保護者会組織の支援も含めて、園児の成長に寄与する土壌はできている。</p>
---

- 学園の豊富な人的・物的資源を上手く相互に利用されている点が素晴らしいと思います。
- 土曜日の園庭解放、よく参加させていただいています。
- 課外保育も増え、幼稚園の子どもたちの様子も見られるようになり、親としてはとても満足しています。
- 短縮保育も減って、預かり保育もしてくれる日もかなり増え、そのうち仕事を始めようと思っているのですごく助かります。
- 親というものは自分の見えないところに子どもを預けることに対して最初は不安を感じるものだと思います。しかしこの園ではどの職員の方々も暖かく、入園一日目から名前できちんと呼んでくれ、とても安心して通うことができる環境をつくって下さいました。この園だからこそ子どもも楽しく過ごすことができたと思っています。

【保護者会役員とクラス委員他、保護者アンケート調査の自由記述から】